2017年度
サンケイグループ
環境サイトレポート

工場内の花壇撮影

SANKEI

三恵工業(株)・(株)サンケイ・(株)ギャルドサンケイ
環境保全活動委員会　2017年09月 発行

MY DEAR GLOBE

サンケイグループの概要

サンケイグループの生産拠点

□会社名　:三恵工業株式会社
□創立　　:昭和26年(1951年)8月15日
□資本金　:5000万円
□売上高　:22.6億円(2017年6月期)
□従業員　:95人
□所在地　:三重県鈴鹿市上野町字助町48番地
　　TEL:059-378-1243(代)
　　FAX:059-378-3718
　　URL:http://www.isu-sankei.co.jp
□ ISO9001認証取得:1999年8月
□ ISO14001認証取得:2000年7月
□ 新JISマーク表示認証取得:2007年6月

サンケイ製品の販売会社

□会社名　:株式会社サンケイ
□設立　　:昭和47年(1972年)6月
□資本金　:4500万円
□所在地　:三重県鈴鹿市上野町字助町48番地
　　TEL:059-378-0465(代)
　　FAX:059-378-3719
□従業員　:21人
□会社名　:株式会社ギャルド
□設立　　:平成3年(1991年)9月
□資本金　:1000万円
□所在地　:三重県鈴鹿市上野町字助町48番地
　　TEL:059-378-1298(代)
　　FAX:059-378-3612

経営方針および環境方針

経営方針

私たちはお客様に満足される商品を、積極的に創ることにより、社員の生活向上と、社会への貢献をめざします。

品質／環境宣言

私たちサンケイグループは、商品の開発、設計、製造、販売、廃棄の活動が、地球環境と深く関連し影響を与えていることを明確にとらえ、地球環境保全への貢献に徹し、お客様に満足して頂ける商品を継続的に提供ができるように、全社員の技術力の向上と健全なる成長を目指します。

品質／環境方針

私たちは、特に次の項目について優先的に活動し、品質向上、環境保全及び汚染予防に取組みます。

1.品質／環境関連の法規制及びその他の要求事項を遵守し、社会貢献を遂行します。
2.品質及び技術の向上を目指し、環境負荷の低減と汚染防止に努めます。
3.資源の有効活用及び省エネルギーに配慮して、CO2排出の抑制をはかります。
4.QEMSマニュアル及び社内規定の文書を定期的に見直し、必要に応じて改訂します。
5.顧客ニーズ及び環境に配慮した商品の開発、設計、製造、販売を積極的に推進します。
6.品質／環境方針及び環境保全活動についての結果は品質・環境報告書にまとめ全社員に周知し、社外にも開示します。

製品紹介

いつでも、どこでも手軽に使用することができる
簡便さが魅力の折りたたみチェアを豊富に
ラインナップしています。

折りたたみチェア

ループスタッキングチェア

多目的チェア

オフィスにおける打合せ・会議や、各種施設での
レセプションなどでは、その目的や規模に応じた
最適な会場設営が可能です。

環境目的・目標

環境目的項目 （過去3年間実績平均値）		2015年度（第65期）達成目標	2016年度（第66期）達成目標	2017年度（第67期）達成目標
1）廃棄物の減量化				
廃粉体塗料	廃棄量（5,516kg） 原単位　9.0　g/脚	−5% （8.6g/脚）	−5% （8.6g/脚）	−5% （8.6g/脚）
一般廃棄物	廃棄量（19,600kg） 原単位　31.4 g/脚	−5% （29.8g/脚）	−5% （29.8g/脚）	−5% （29.8g/脚）
産業廃棄物	廃棄量（56,340kg） 原単位　89.1　g/脚	−5% （84.6g/脚）	−5% （84.6g/脚）	−5% （84.6g/脚）
2）再生資源化率の向上				
上記廃棄物のサーマル及びマテリアルリサイクル化を推進する。	リサイクル率： 100. 0%	100%維持	100%維持	100%維持
3）資源の有効利用				
金属屑（鉄＋アルミ）の低減	排出量（27,487kg） 原単位　44.6g/脚	−2% （43.7g/脚）	−2% （43.7g/脚）	−2% （43.7g/脚）

環境目的・目標

環境目的項目 （過去3年間実績平均値）		2015年度（第65期）達成目標	2016年度（第66期）達成目標	2017年度（第67期）達成目標
4）CO2排出量の見える化				
省エネルギー化によるCO2排出量の低減	三恵工業㈱排出量 620.6 t	−2%（608tCO2）	−2%（608tCO2）	−2%（608tCO2）
	㈱サンケイ排出量 17.5 t	−2%（17.2tCO2）	−2%（17.2tCO2）	−2%（17.2tCO2）
省エネルギー化による電力使用量の低減	三恵工業㈱使用量原単位 1.1216kWh/脚	−5%（1.0655kWh）	−5%（1.0655kWh）	−5%（1.0655kWh）
5）環境対応商品の拡充（LCAを用いた商品）				
製品販売比率	（39.6%）	40%	41%	42%
製品構成比率	（72.3%）	73%	74%	75%

環境目的・目標

※達成度は2016年度目標に対するもの
黒文字:100%以上　青文字:90%以上　赤文字:90%未満

環境目的項目 （2016年度目標）		2016年度(第66期) 達成度(実績)	コメント
1)廃棄物の減量化			
廃粉体塗料	廃棄量　5%削減 (2012～2014年度平均値比)	159.3% (5.4g/脚)	前年度よりやや増加したが、減量化を維持している。
一般廃棄物	廃棄量　5%削減 (2012～2014年度平均値比)	117.8% (25.3g/脚)	前年度より増加した。
産業廃棄物	廃棄量　5%削減 (2012～2014年度平均値比)	108.9% (77.7g/脚)	主に廃プラ混合物、木くず等を減量し、前年度よりやや削減できた。
2)再生資源化率の向上			
上記廃棄物のサーマル及びマテリアルリサイクル化を推進する。	リサイクル率 100%維持	100.0% (100.0%)	全ての廃棄物について、サーマルリサイクル以上の処理ルートが確保でき、ゼロエミッションを達成して、継続している。今後も、引き続き排出量の更なる削減に取組んでいく。
3)資源の有効利用			
金属屑(鉄＋アルミ)の低減	排出量　2%削減 (2012～2014年度平均値比)	163.1% (26.8g/脚)	5年続けて削減することが出来、目標達成出来た。原単位は、直近5年間で最も少ない数値となっている。

環境目的・目標

※達成度は2016年度目標に対するもの
黒文字：100%以上　青文字：90%以上　赤文字：90%未満

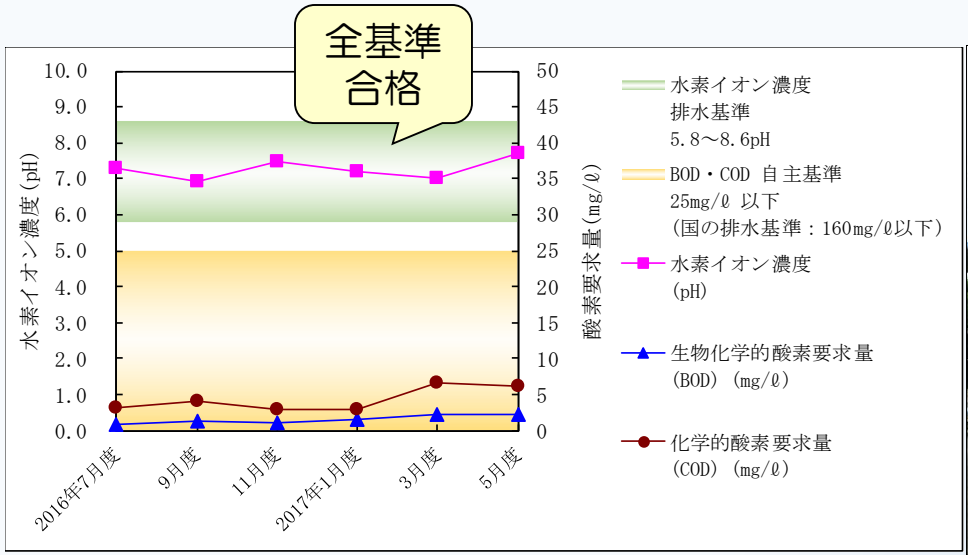
環境目的項目 （2016年度目標）		2016年度（第66期）達成度（実績）	コメント
4）CO2排出量の見える化			
省エネルギー化によるCO2排出量の低減	三恵工業㈱排出量 2%削減（2012～2014年度平均値比）	86.2%（705.1tCO2）	生産量に比例して、CO2排出量も増加している。別途、原単位換算でも評価したが、増加傾向は変わらず。
	㈱サンケイ排出量 2%削減（2012～2014年度平均値比）	135.6%（13.2tCO2）	現在、電力とガスのみの集計であるが、4年連続で削減し、目標達成出来た。
省エネルギー化による電力使用量の低減	三恵工業㈱使用量 5%削減（2012～2014年度平均値比）	84.5%（1.26kWh/脚）	－
5）環境対応商品の拡充（LCAを用いた商品）			
製品販売比率	41%以上	120.2%（49.3%）	環境対応製品のみでの数値。目標達成した。
製品構成比率	74%以上	102.2%（75.6%）	新製品も徐々に立上り、目標達成出来た。残りの新製品は引き続き取り組む。

製造段階における環境配慮

製造段階では、材料やエネルギーの無駄のない利用、排気や排水中の汚染物質の低減
発生した廃棄物の再利用などの取り組みを行っています。

排水

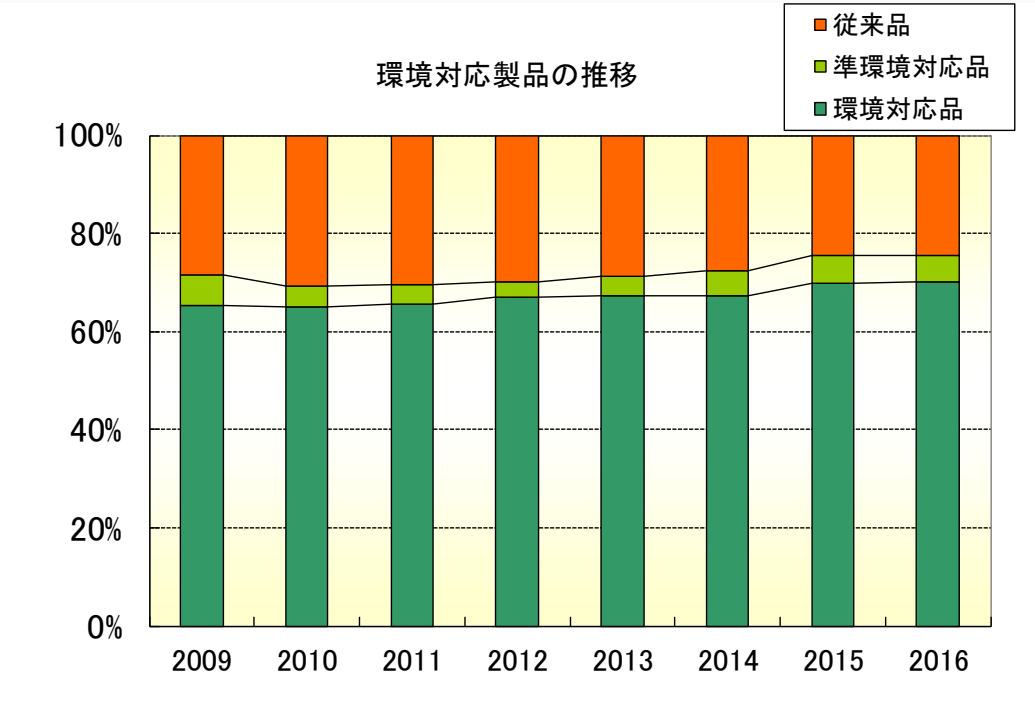
弊社で発生する排水は、主に塗装前処理ラインから出ていますが、工場敷地内にある
排水処理施設で浄化してから放流しています。放流に際しては、法律制定基準より厳しい
自主基準値を設定し管理しています。
また、定期的な水質評価を実施してチェックを怠らず、水使用量の低減につとめています。



環境配慮型チェア

環境配慮型製品の比率向上

持続可能な社会の実現に向けて、様々な切り口から環境に配慮した製品を積極的に開発・商品化を図っています。



環境対応品

部品交換の容易な製品

（エコマーク分類№68または、その同等品） かつ、下記の準環境対応品の条件も満たすもの。

準環境対応品

再生材料、再生容易な材料（PP等）を使用している製品。

各種法規制への対応

有害物質を含む違法な原料を使用せず
各環境基準数値へ対応した製品作りを行っています。

廃棄物の適正処理

廃棄物処理法に基づき適正な業者を選定し、廃棄物の最終処分までの流れを
把握しており、排出事業者責任を果たしています。
適正な処理とともに廃棄物の再資源化に努力しています。

また、県条例に基づく、処分場の現地確認を、年１回実施して、監視を行っています。

（抜粋） 三重県産業廃棄物の適正な処理の推進に関する条例

第7条　事業者は、産業廃棄物の処分を委託しようとする時は、規則で定めるところにより、委託業者が、当該産業廃棄物を処分する能力を現に有していることを確認するとともに、規則で定める事項を記録する。確認をした日から一年を経過した日以後引き続き、委託する場合も同様とする。

三重県産業廃棄物の適正な処理の推進に関する条例施行規則

第3条　条例7条第一項の規定による確認は、次の各号のいずれかの方法により行うものとし、

当該確認した事項の記録は五年間保存するものとする。

一　自ら実地に調査し、確認すること。

二　自らの責任において、実地に調査している者から聴取し、及び確認すること。

サーマルリサイクル　①

＜現状の処理ルート＞
廃プラスチック→焼却（サーマルリサイクル）

真ん中の箱（コンテナ）

業者で破砕、
選別処理（鈴鹿市）

燃料用として、
圧縮・梱包（鈴鹿市）

北海道・苫小牧へ運搬し、
発電所での燃料として使用
（サーマルリサイクル）

▲苫小牧発電所

写真は、㈱サニックスHPから引用

サーマルリサイクル　②

＜現状の処理ルート＞

廃粉体塗料：焼却（ｻｰﾏﾙﾘｻｲｸﾙ）

廃油：焼却（ｻｰﾏﾙﾘｻｲｸﾙ）→微量の燃えがら（1％未満）を埋立

熱利用：処理場近隣の温泉施設の湯温調整に利用

↑温泉施設

マテリアルリサイクル ①

＜現状の処理ルート＞

汚泥（塗装前処理水）→社内中間処理（脱水）
→混練造粒→残渣を路盤材に利用（ﾏﾃﾘｱﾙﾘｻｲｸﾙ）

残渣を、

人工骨材・埋め戻し材として利用

木くず（パレット等）→破砕→パルプ原料などに再利用（ﾏﾃﾘｱﾙﾘｻｲｸﾙ）

チップを、パルプ原料、ボード、

燃料等に再資源化

マテリアルリサイクル ②

廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ混合物（金属を含むもの）　→焼却（ｻｰﾏﾙﾘｻｲｸﾙ）→燃えがら（ﾏﾃﾘｱﾙﾘｻｲｸﾙ）

焼却処理

大阪本社炉内温度　950℃

堺事業所　炉内温度850℃

熱回収（ｻｰﾏﾙﾘｻｲｸﾙ）

本社：汚泥乾燥

堺：自家発電及び売電

焼却により

可燃物は全体量の５％以下に減量される

燃がらを

九州へ輸送

溶融炉でスラグやメタルにリサイクル

ＭＦ炉にて熔練、溶融処理→スラグ等に商品化

スラグ：ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾛｯｸ

ｱｽﾌｧﾙﾄ骨材

メタル：ｶｳﾝﾀｰｳｪｲﾄ、銅製品

一般廃棄物（事業系）

＜現状の処理ルート＞　可燃物（一般廃棄物）→焼却（ｻｰﾏﾙﾘｻｲｸﾙ）

燃焼を２４時間監視

燃焼する際のエネルギーで発電している。

鈴鹿市清掃センター

プラスチックリサイクル

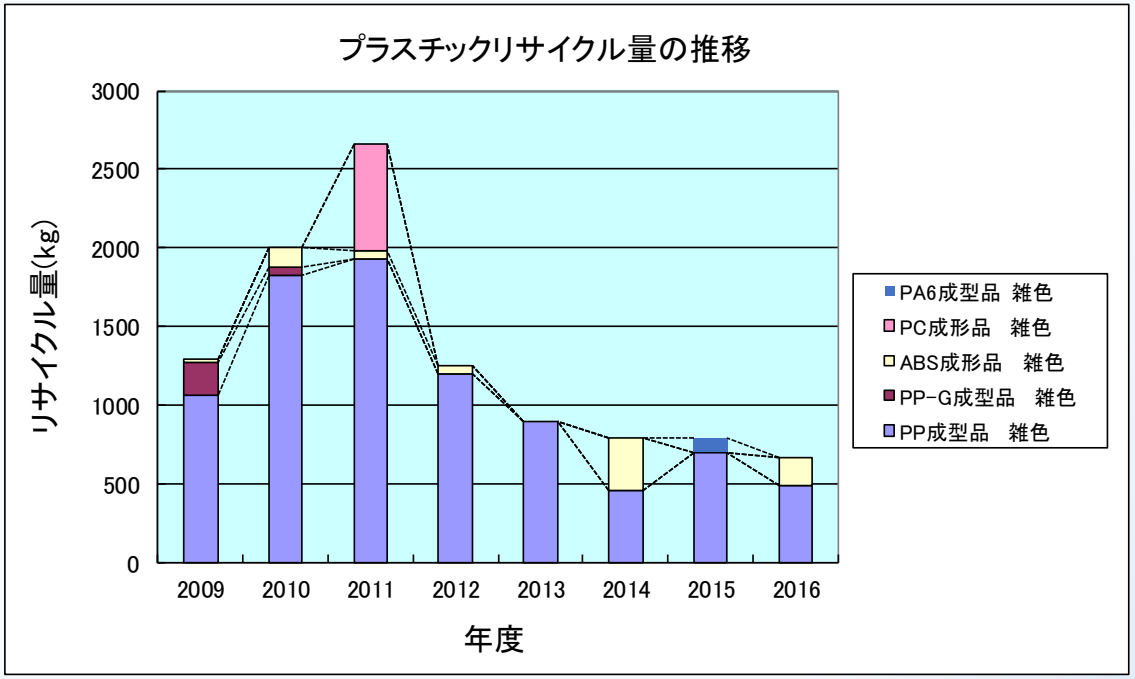
＜現状の処理ルート＞

硬質ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類→粉砕→ﾍﾟﾚｯﾄ化→樹脂原料として再利用（ﾏﾃﾘｱﾙﾘｻｲｸﾙ）

社内で分別を行い、有価で売却

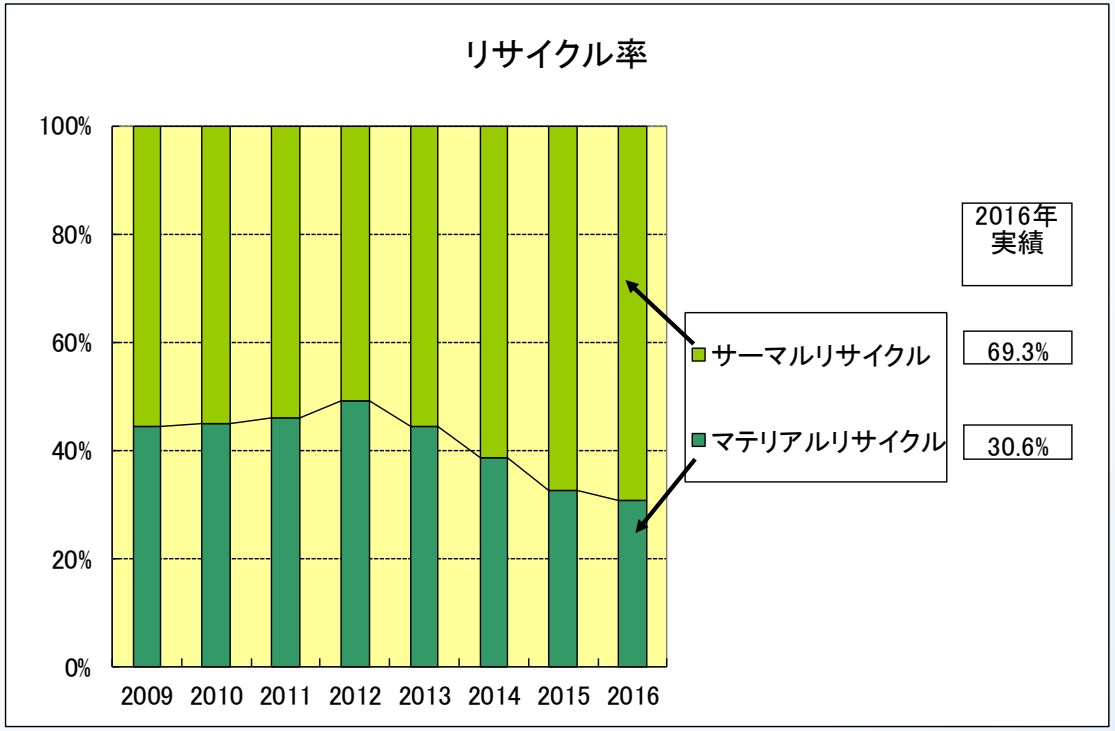
プラスチックリサイクル

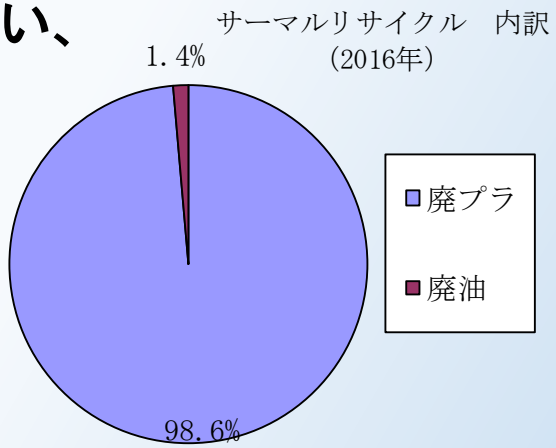
不要になったプラスチック製の部品や廃材は、
マテリアルリサイクルをしています。
対象は主にポリプロピレン(PP)、ABSです。
原材料ごとに専用かごを設置し、分別回収を行っています。

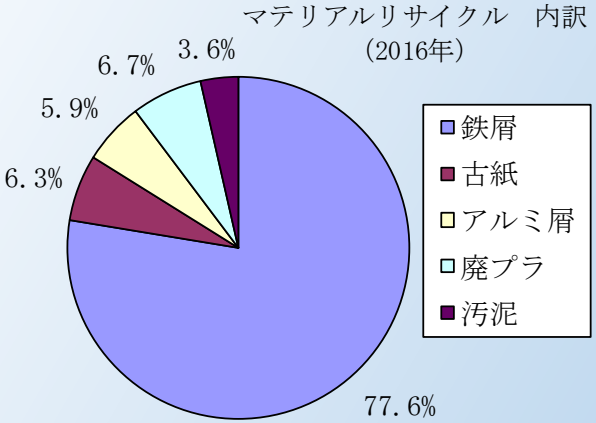


ゼロエミッション

全ての廃棄物について、
サーマルリサイクル、またはマテリアルリサイクルを行い、
ゼロエミッションを達成しています。







教育・社会貢献活動

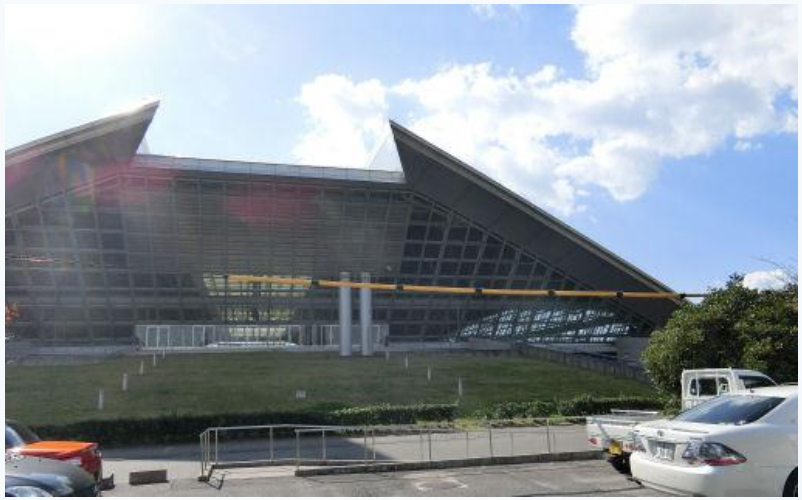
社会の一員として、地域の皆様との交流や
環境との共生・教育活動を行っています。

- 各種フェアや展示会への出展
- 工場見学の受け入れ
- インターンシップ受け入れ
- 外部での講演、事例発表
- 清掃作業
- 災害および緊急事態対応訓練

みえリーディング産業展2016

2016年１１月１１日～１２日

四日市ドーム



教育・社会貢献活動

工場周辺：国道一号線沿線のごみ拾い

2017年5月12日

収集した、ごみ

教育・社会貢献活動

外部講師を呼んでの

社内での水に関する講習

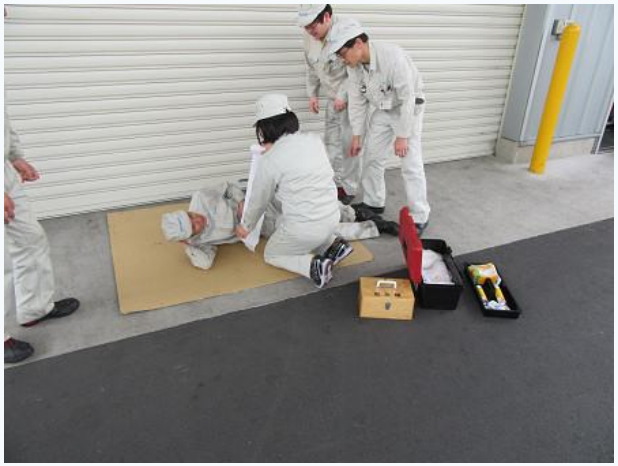
2016年9月30日

社内でのサイトレポート発表

（社内QC発表会の場にて）

2016年１０月７日

教育・社会貢献活動



防災・減災　　当社での消防訓練（避難・消火・救命処置）

2017年5月12日

年表

	主な環境法案	サンケイグループ動向	主な環境対応商品
1951		・名古屋市中区に三惠ブレーキ製作所設立。	
1955		・三惠工業株式会社に商号変更、鋼製家具製造販売を定款に加える。	
1962		・三重県鈴鹿市に工場移転。	
1963		・操業開始。	
1967		・日本工業規格（JIS)「鋼製事務用イス」表示許可工場となる。	
1968	・大気汚染防止法。		
1972		・株式会社サンケイを設立。	
1983		・名古屋通商産業局長賞を受賞。	
1991	・リサイクル法。	・株式会社ギャルドを設立。	
1993	・環境基本法	・MY DEAR GLOBEを提唱。（親愛なる私たちの地球）	
1995	・容器包装リサイクル法。		
1996			・CM01/04
1997	・新エネルギー利用等促進に関する法律。	・粉体塗装工場完成。 ・リーコサンケイ（タイランド）設立。	
1998	・地球温暖化対策の推進に関する法律。		・CM02/SCF64
1999		・三惠工業(株)が国際品質保証規格ISO9001認証取得。	・CM10/11
2000	・グリーン購入法。 ・循環型社会形成推進基本法。	・三惠工業(株)・(株)サンケイ・(株)ギャルドが国際環境マネジメントシステム規格ISO14001認証取得。	・CM320/321 ・CL233/234 ・SCf65
2001	・PRTR法 ・資源有効利用促進法。 ・自動車Nox・PM法。		
2002	・RoHS指令（EU)。		・CM108/109
2003	・学校環境衛生基準改訂。 ・建築基準法改訂。 ・環境保全・環境教育推進基本法。 ・個人情報保護法。	・鈴鹿市ごみ減量推進事業所に認定。	

	主な環境法案	サンケイグループ動向	主な環境対応商品
2004	・学校環境衛生基準改訂。		・CM399
2005	・大気汚染防止法改正(VOC)。		
2006	・グリーン購入法改正（原木伐採合法）。 ・省エネ法改正（荷主・運送） ・地球温暖化対策推進法改正。 ・廃棄物処理法施行令改正。	・鈴鹿市ごみ減量推進事業所表彰。	
2007	・消費生活用製品安全法改正。	・新JISマーク表示認証取得「オフィス用イス」 ・LCA日本フォーラム奨励賞受賞。	・CF67
2008	・グリーン購入法一部変更。		
2009	・グリーン購入法改正。 ・省エネ法改正。 ・地球温暖化対策推進法改正。	・新ブランドHECMEC「HM01」が各賞を受賞。 ・第3回キッズデザイン賞（商業デザイン部門）を受賞。 ・2009年度グッドデザイン賞を受賞。 ・第6回エコプロダクツ大賞審査員長特別賞（奨励賞）を受賞	・HM01
2010	・廃棄物処理法改正。	・第4回キッズデザイン賞（ユニバーサルセーフティ部門）を受賞。	
2011		・三惠工業(株)が意匠活用優良企業として特許庁長官表彰を受ける。	・CM375/376
2012		・三惠工業(株)が第1回みえ環境大賞（環境経営部門）を受賞。	
2013			・CM104/105
2015		・粉体塗装ライン改装工事完了。	・CM550/397 ・SCF07
2016	・グリーン購入法一部変更（オフィス家具判断基準）	・株式会社ギャルドを株式会社ギャルドサンケイに社名変更。	
2017		・石薬師工場完成。	・CF80 ・CM100

会社概要

三惠工業 株式会社
〒513-0017
三重県鈴鹿市上野町
字助町48番地
TEL 059-378-1243(代)
FAX 059-378-3718

三惠工業 株式会社 石薬師工場
〒513-0023
三重県鈴鹿市河田町
字丸山1215番地
TEL/FAX 059-374-1120

株式会社 サンケイ
〒513-0017
三重県鈴鹿市上野町
字助町48番地
TEL 059-378-0465(代)
FAX 059-378-3719

株式会社 ギャルドサンケイ
〒513-0017
三重県鈴鹿市上野町
字助町48番地
TEL 059-378-1298
FAX 059-378-3612